

数値基準超過時における濁り(SS)の分布状況

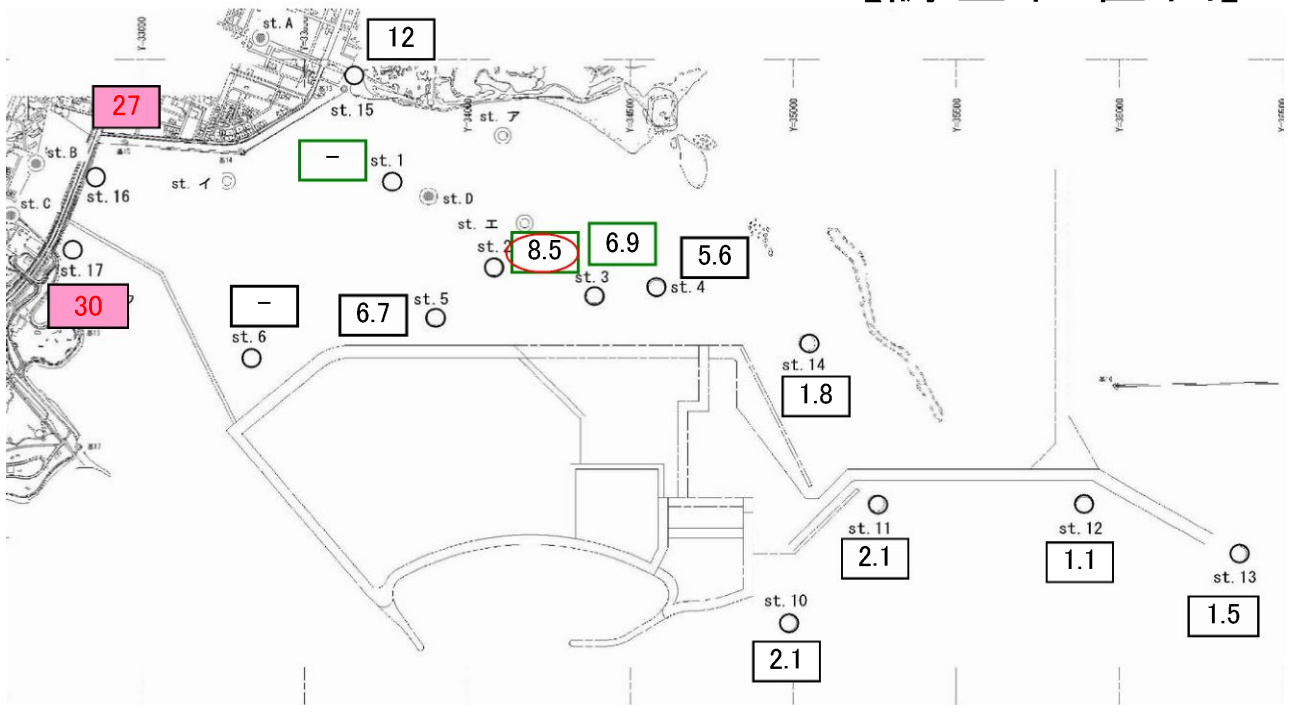
平成 25 年 9 月 6 日 (金)

15:13

干潮13:12

気象状況	天気	風向	風力	潮汐	備考
	pm	晴	SE	1	上げ潮

【調査位置図】



濁り(SS)監視基準

- 基本監視地点 st.1~3 : 7mg/L 数値基準を超過した濁り(SS)が確認された地点
- 補助監視地点 st.4~6, st.10~14 : 11mg/L 濁り(SS)が11mg/Lを超えた地点

(st.15~st.17は流入部なので、基準値は設定されていない。)

工事の状況	海上	イニ護岸において、陸上よりクレーンによる土のう設置作業が行われていた。 ホ護岸において、クレーン付台船による汚濁防止膜設置作業が行われていた。

数値基準を超過した調査区域の状況

- ・現地観測での風向は南東、風力は1、波高は0.1m程度であった。
- ・基準を超過したst.2の周辺海域は全体的に白濁が見られ、st.3でも高い値であった。
- ・補足調査によると、ホ護岸の汚濁防止膜の直近で10.6mg/L、汚濁防止膜内側で6.2mg/Lであった。
- ・15時台の調査においてst.3近傍のホ護岸の汚濁防止膜は一部水没し、汚濁防止膜の内側から外側に向かって越流が確認された。
- ・越流箇所周辺では白濁が見られ、濁度は10.6mg/Lと高い値を示した。

評価

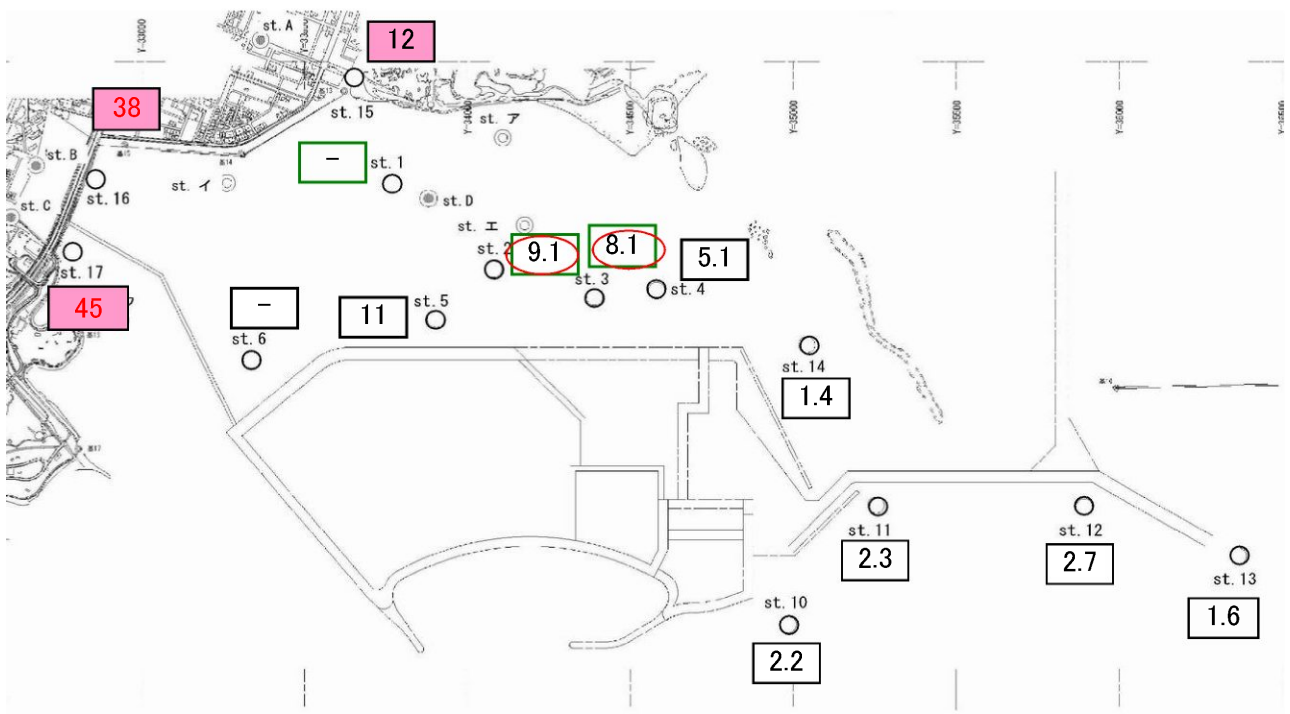
- ・当日、海上工事は汚濁防止膜設置作業のため、現場濁度測定は行われていない。
- ・濁りの発生する作業は行われていなかった。
- ・汚濁防止膜の一部が水没していたので、速やかに対策が行われた。
- ・過年度同時期の調査結果として、水深の浅い人工島内側の地点は、夏場時期に底質の巻き上げにより濁りが大きくなる傾向であった。
- ・st.2で工事監視基準を超過した要因としては、測定時の水深が0.6m程度と浅く、南東の風が卓越する時期における一過性の底質の巻き上げりが要因であると推察された。
- ・ホ護岸汚濁防止膜の一部水没箇所近傍における工事監視基準超過は、汚濁防止膜内の測定値が工事監視基準内であることから、汚濁防止膜の内側から外側に向かった越流による底質の巻き上げりであると推察される。

数値基準超過時における濁り(SS)の分布状況

平成 25 年 9 月 8 日 (日) 15:12 15:00 14:49 14:30 干潮14:14

気象状況	天気	風向	風力	潮汐	備考
pm	晴/曇	NNE ~NE	2 ~ 3	上げ潮	中潮

【調査位置図】



濁り(SS)監視基準

- 基本監視地点 st.1~3 : 7mg/L 数値基準を超過した濁り(SS)が確認された地点
- 補助監視地点 st.4~6、st.10~14 : 11mg/L 濁り(SS)が11mg/Lを超えた地点

(st.15~st.17は流入部なので、基準値は設定されていない。)

工事の状況	海上	内容
		イニ護岸において、陸上よりバックホウによる基礎捨石運搬投入作業が行われていた。
		ホ護岸において、クレーン付台船による汚濁防止膜設置作業が行われていた。

数値基準を超過した調査区域の状況

- ・現地観測での風向は北北東、風力は3、波高は0.1~0.2m程度であった。
- ・基準を超過したst.2、3の周辺海域は全体的に濁りが見られ、st.5でも高い値であった。
- ・干潮時のため水深がst.2で0.5m、st.3で0.8m、st.5で0.4mと浅く、北東の風、風力3であった。
- ・補足調査によると、工事箇所近傍の汚濁防止膜外側ではst.5と同程度の濁りが観測された。

評価

- ・st.5付近のイニ護岸においては、午前、午後と現場濁度測定で、濁りは確認されなかった。
- ・汚濁防止膜外側近傍の濁りが確認されたため工事を一時中断し、現場状況を確認した。
- ・過年度同時期の調査結果として、水深の浅い人工島内側の地点は、夏場時期に底質の巻き上げにより濁りが大きくなる傾向であった。
- ・以上のことから、st.2、3で工事監視基準を超過した要因としては、干潮時のため、水深がst.2で0.5m、st.3で0.8mと浅く、風力3の北東の風により、海底の砂が巻き上げであると推察される。

数値基準超過時における濁り(SS)の分布状況

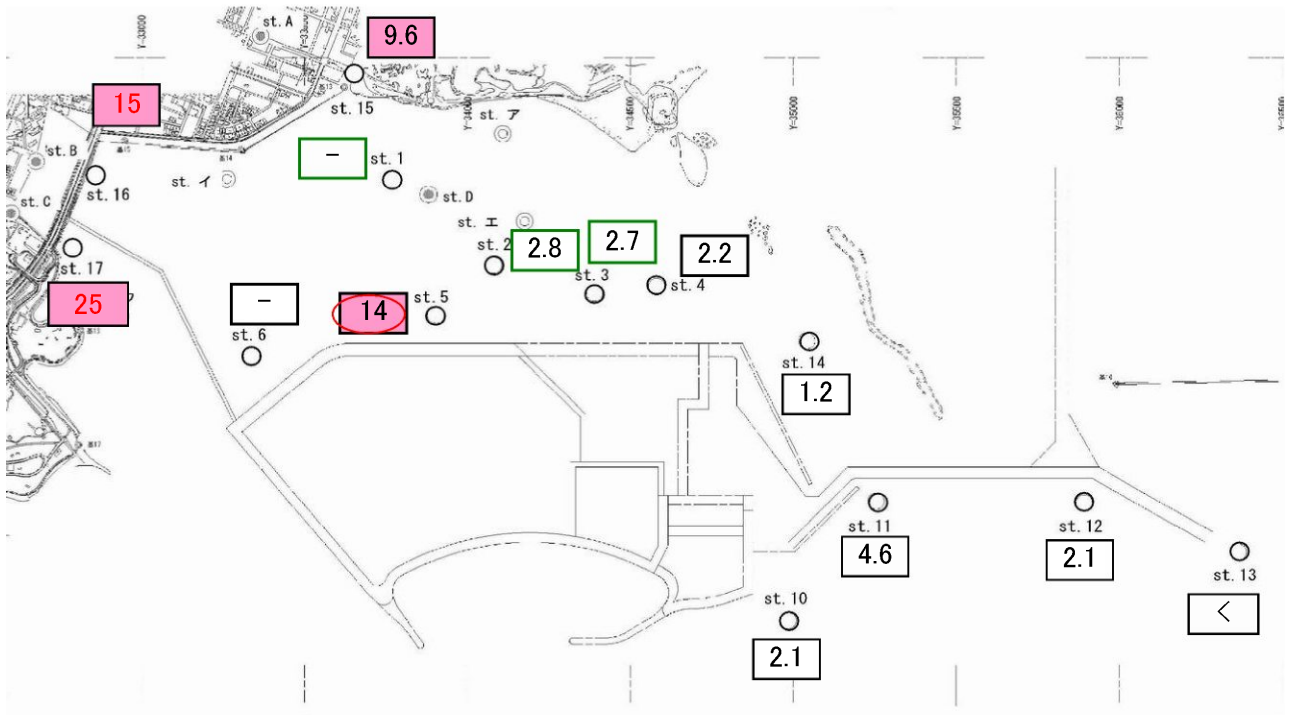
平成 25 年 9 月 17 日 (火)

11:02

干潮11:09

気象状況	天気	風向	風力	潮汐	備考
am	晴	NE	4	下げ潮	中潮

【調査位置図】



濁り(SS)監視基準

- 基本監視地点 st.1~3 : 7mg/L 数値基準を超過した濁り(SS)が確認された地点
- 補助監視地点 st.4~6, st.10~14 : 11mg/L 濁り(SS)が11mg/Lを超えた地点

(st.15~st.17は流入部なので、基準値は設定されていない。)

工事の状況	海上	イニ護岸において、陸上よりバックホウによる被覆石均し作業が行われていた。いう・え護岸において浚渫作業が行われていた。

数値基準を超過した調査区域の状況

- ・現地観測での風向は北東、風力は4、波高は0.2m程度であった。
- ・基準を超過したst.5の周辺海域は全体的に濁りが見られた。
- ・st.5は、干潮時のため、水深0.4mと浅く、風力4の北東の風が観測された
- ・補足調査の結果、工事箇所近傍の汚濁防止膜外側ではst.5よりも低い濁り(5.5mg/L)が観測された。

評価

- ・イニ護岸においては、午前、午後と現場濁度測定で、にごりは確認されなかった。
- ・当日、濁りの発生する作業は行われていなかった。
- ・汚濁防止膜外側近傍の濁りが確認されたため工事を一時中止し、現場状況を確認した。
- ・補足調査の結果、工事箇所近傍の汚濁防止膜外側ではst.5よりも低い濁り(5.5mg/L)が観測された。
- ・過年度同時期の調査結果として、水深の浅い人工島内側の地点は、夏場時期に底質の巻き上げにより濁りが大きくなる傾向であった。
- ・以上のことから、st.5で工事監視基準を超過した要因としては、干潮時のため、水深がst.5で0.2mと浅く、風力4の北東の風により、海底の砂が巻き上げであると推察される。

数値基準超過時における濁り(SS)の分布状況

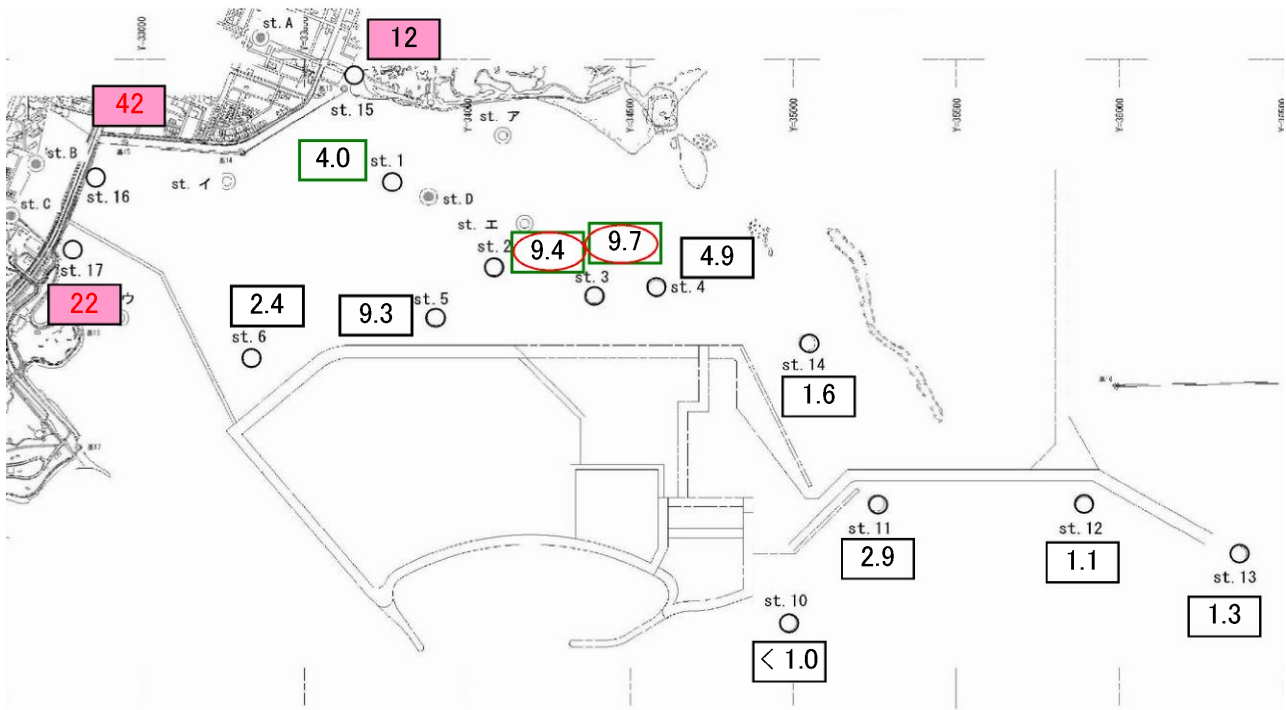
平成 25 年 9 月 18 日 (水)

14:52 14:41

干潮11:52

気象状況	天気	風向	風力	潮汐	備考
pm	晴	E	3 ~ 4	上げ潮	大潮

【調査位置図】



濁り(SS)監視基準

- 基本監視地点 st.1~3 : 7mg/L 数値基準を超過した濁り(SS)が確認された地点
- 補助監視地点 st.4~6、st.10~14 : 11mg/L 濁り(SS)が11mg/Lを超えた地点

(st.15~st.17は流入部なので、基準値は設定されていない。)

工事の状況	海上	
		木護岸において、サンドコンパクション船による打設作業が行われていた。
		い・う・え護岸の仮設棧橋側で浚渫作業が行われていた。
		二護岸において陸上よりバックホウによる基礎捨石均し作業が行われていた。
		イ護岸において、土砂盛土・均し作業が行われていた。

数値基準を超過した調査区域の状況

- ・現地観測での風向は東、風力は3~4、波高は0.2~0.3m程度であった。
- ・基準を超過したst.2、st.3の周辺海域は全体的に白濁が見られた。
- ・補足調査の結果、st.3近傍の木護岸の汚濁防止膜直近の外側で21.0mg/Lの濁りが確認された。
- ・上げ潮時で沖側からの風も強く、汚濁防止膜の一部が水没し、木護岸の汚濁防止膜付近では白濁が確認された。

評価

- ・イニ護岸・木護岸においては、午前・午後と現場濁度調査で、濁りは確認されなかった。
- ・汚濁防止膜の一部水没のため、工事を一時中止した。
- ・なお、汚濁防止膜の一部水没については、木護岸の地盤改良、い・う・え護岸の浚渫作業等の海上作業を速やかに中止し、汚濁防止膜の沈みこみ対策を行った。
- ・st.2、st.3で工事監視基準を超過した要因としては、上げ潮時で沖側からの風も強く、汚濁防止膜の一部が水没したことによるものと考えられる。

数値基準超過時における濁り(SS)の分布状況

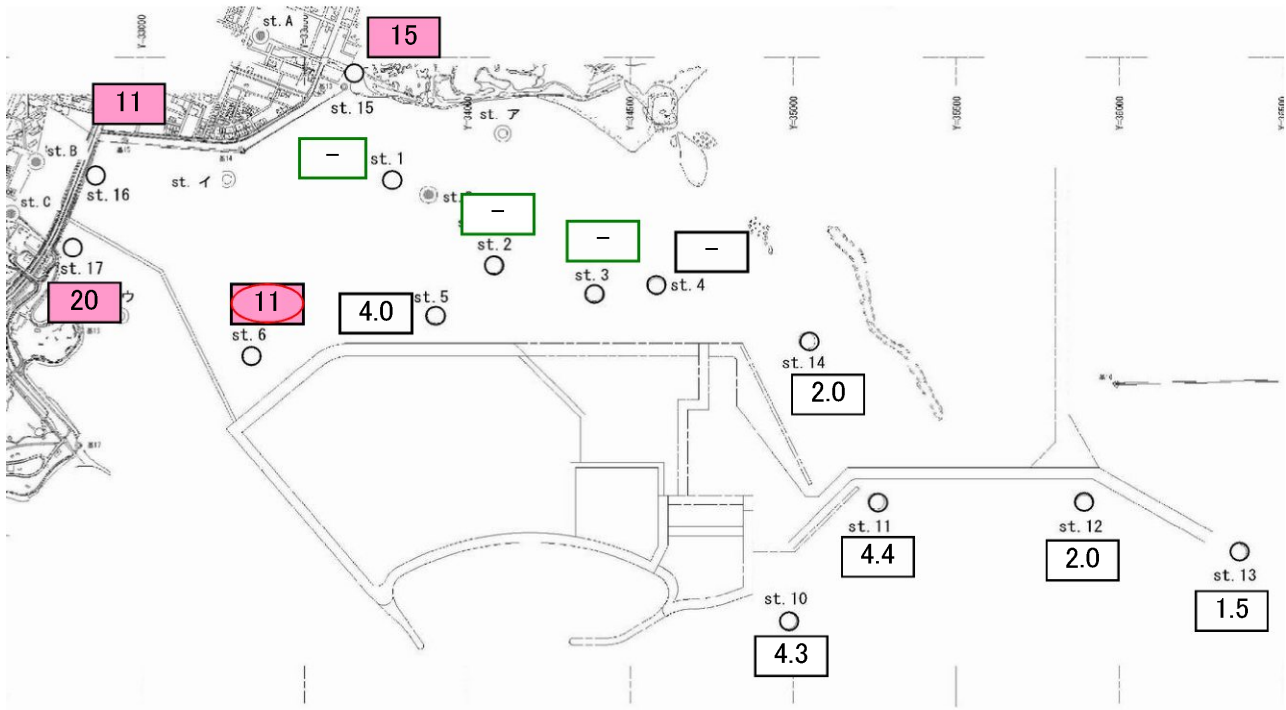
平成 25 年 9 月 19 日 (木)

10:15

干潮12:31

気象状況	天気	風向	風力	潮汐	備考
am	晴	NE ~E	4 ~ 5	下げ潮	大潮

【調査位置図】



濁り(SS)監視基準

- 基本監視地点 st.1~3 : 7mg/L 数値基準を超過した濁り(SS)が確認された地点
- 補助監視地点 st.4~6、st.10~14 : 11mg/L 濁り(SS)が11mg/Lを超えた地点

(st.15~st.17は流入部なので、基準値は設定されていない。)

工事の状況	陸上	二護岸において陸上よりバックホウによる基礎捨石均し作業が行われていた。

数値基準を超過した調査区域の状況

- ・現地観測での風向は北東、風力は4、波高は0.3m程度であった。
- ・基準を超過したst.6の周辺海域は全体的に白濁が見られた。

評価

- ・イニ護岸においては、午前、午後と現場濁度測定で、にごりは確認されなかった。
- ・当日、海上作業は行われてなかった。
- ・st.6で工事監視基準を超過した要因としては、下げ潮時で水深が0.5mと浅く、北東の風が強く、波浪による海底の砂が巻き上げであると推察される。